

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 75 分

## 解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算・描図

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

例年、私立大学の入試問題としては論述量が多い傾向があるが、今年度は昨年度と比べて論述量が半減した。

## その他トピックス

特になし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	空欄補充 選択 記述 論述	発生 分類	生物	問1 カ : VegT の翻訳を阻害すると、内胚葉だけでなく中胚葉も形成されないことから、VegT が中胚葉誘導に関わるノーダルタンパク質の発現を促進すると考えることができる。	標準
〔II〕	空欄補充 記述 論述 計算 描図	細胞分裂	生物 基礎 ・ 生物	問6 相同染色体が4対あるので、配偶子における染色体の組み合わせが $2^4$ 通りであり、2つの配偶子が合体して生じる子の染色体の組み合わせは、 $2^4 \times 2^4 = 2^8$ 通りである。	標準
〔III〕	空欄補充 選択 記述 論述	神経 発生	生物	問4(1) ガイド分子Aが背側神経の軸索の伸長に関わることと、反発性の応答を誘導することに着目する。 (4) ガイド分子Bは腹側組織で発現するので、背側神経の軸索の伸長を誘引し、腹側神経の軸索の伸長に反発性の応答を引き起こすと考えられる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

遺伝子、生殖と発生、代謝、進化などが頻出分野であるが、全分野について基本知識や基本的な計算に習熟しておこう。やや細かな用語を尋ねる設問が出題されるので、教科書に記載されている用語は注意して覚えるようにしておこう。例年、論述形式の問題が出題されるので、60～100字程度の論述問題の練習を重ねておこう。